

学校評価（R6後期）の考察

肯定率80%を超える評価項目（B評価以上）は、教職員が18項目中18項目（全項目がA評価）、児童が15項目中14項目（うち11項目はA評価）、保護者が16項目中12項目（うち9項目はA評価）と全体的に良好である。しかし、教職員の評価に比べ、児童・保護者の肯定率が低いことや、前回と比較して評価を下げた項目が多く見られることなどから、取組の検証や対応の見直しが必要である。

【項目ごとの分析と対応策】

○ 「楽しい学校生活」 評価項目☆

肯定率は、職員100%、児童94%、保護者91%と高く、良好な結果と言える。しかし、児童・保護者ともに100%とならなかったことに課題を感じる。今後は、毎月の生活アンケートに基づく教育相談や、教職員間の情報共有を一層充実させ、全ての児童・教職員が「笑顔で登校し、満足して下校する学校」づくりを推進したい。

○ 「家庭学習」 評価項目③

児童肯定率は前回比-9%(86%、B評価)、保護者肯定率は前回比-14%(66%、D評価)と大きく下がっている。学級担任への提出状況や内容には大きな問題は感じられないため、家庭学習に取り組む姿勢や意欲について指導を続けるとともに、家庭生活におけるゲームや動画視聴のルール等について、家庭と学校の連携を一層強化していく。

○ 「読書習慣」 評価項目④

職員の肯定率が、前回比+17%(A評価)と大きく向上していることから、読書の指導・奨励に力を入れて取り組むことができていることが伺える。しかし、保護者の肯定率は44%(D評価)と極めて低く、読書デー以外の家庭読書は十分ではないと考えられる。家庭読書の習慣化は、豊かな心を育むだけでなく、本校の課題の一つである読解力の向上にも直結する課題であるため、今後は、読書の楽しさや読書をする事のよさについて啓発する取組を一層工夫するとともに、家庭との連携強化に努めていく。

○ 「教育相談」 評価項目⑦

児童肯定率は、97%と極めて高く、ほとんどの児童が困ったときに相談できる相手がいるということが伺える。しかし、保護者の肯定率は、前回比-15%(85%、B評価)と大きく下がっている。これは、児童アンケートの質問内容が「困ったときは先生やお家の人、友達に相談している。」となっていることから、相談相手を家族や友達と捉えて回答している児童が多く、教師と児童の相談体制は十分でないと感じられた保護者が増えたためではないかと考えられる。どの職員も児童理解に努め、相談しやすい雰囲気づくりに努めているが、結果を真摯に受け止め、全ての児童が、不安や悩みを気軽に相談できる体制・雰囲気づくりを進めていく必要がある。

○ 「体力づくり」 評価項目⑬

職員・児童の肯定率が高水準であるのに対し、保護者肯定率は前回比-15%(74%、C評価)と低くなっている。この結果から、学校ではよく運動しているが、家庭ではあまり運動をしない児童が増えているということが懸念される。今後は、「体力アップ推進計画」に基づき、運動の楽しさを味わわせながら「運動の日常化」を図っていく。また、習い事をしている児童も多く、十分な時間を確保できないことも要因の一つであると考えられるため、「家庭学習」・「家庭読書」等の改善も含め、家庭との連携を図りながらゲームや動画視聴に関する指導・啓発を一層充実させていきたい。